「人の役に立つ仕事　～薬剤師を目指して～」

岡田　葵

「あなたは弓道をやめたとき何が残りますか。弓道をやめたとき、何か残るものがなければ、弓道をやっている意味がない。」

これは、中学校１年生の時、部活動の顧問の先生に言われたことばです。私はこのことばが、今でもとても心に残っています。弓道という競技はとても礼儀を大切にするスポーツです。例えば、挨拶。しかし私は挨拶がとても苦手でした。小学生の頃は仲の良い友だちしか挨拶ができない子でした。そんな私が、友人に誘われて弓道部に入部しました。弓道について何も知らず小学生気分のまま活動を始めました。すると先輩に「挨拶はとても大切なことだから、先輩や先生にはちゃんと挨拶してください」と言われました。はじめは「弓道」と「挨拶」がどんな関係があるのか分からず、反発する気持ちもありましたが、それ以上に注意されることが嫌で、挨拶を心がけてするようになりました。挨拶ができるようになると、先輩たちとのコミュニケーションが上手く取れるようになり、部活動での悩みも相談するようになっていました。また、生活にもメリハリができ、なぜか部活動での成績も伸びてきたのです。弓道を通して、人として「挨拶」「コミュニケーション能力」が身についたと最近つくづく感じます。そして、弓道を通して学ぶということは「弓道ができる力」が身につくことだけでなく、このことだったのです。

私は、部活動以外でも日々の学校生活でもたくさんのことをこの矢板中学校で学んでいます。特に２年２組のクラスメイトからは毎日のようにいろいろなことを学んでいます。例えば、担任の先生が教えてくれた、あるすてきな出来事。担任の先生は「小さなおじさん化現象」とネーミングをしました。それは係でもないのにクラスメイトが本棚の本をそろえていたり、プリント配布係のクラスメイトの仕事を手伝っていたりしているのです。「自分から人のために、働いている人がいる」ことを担任の先生は話してくれました。その話を聞いてから周りを注意して見ていると、確かにクラスメイトの思いやりのある行動を目にするようになりました。２年２組という空間で「思いやりの心」を学んだ私は、私も実際に行動できるように心がけています。また、気づく目も学びました。担任の先生が教えてくれなければ「思いやりの行動」や２組の素晴らしさに気づくことなく生活していたことでしょう。でも、先生に周りを見ること、そこから大切なことに気づく心を持つことの素晴らしさを学びました。

ところで、この矢板中学校で身に付けた「思いやりの心」「礼儀」は私の夢である薬剤師になるには、なくてはならない力です。小さいときから耳鼻科に通っていた私は、何度も薬剤師の方にお世話になりました。私も今度はあの優しい薬剤師さんのように人の役に立ちたい、薬を通して人と関わり、社会貢献できる「薬剤師」という職業に興味を持つようになりました。その興味が私の「夢」になったのは１年生の時の職場見学で塩谷病院に行き、薬剤部を見学したことです。電子天秤で調剤という作業をしていました。少しでも重さを間違えてはいけないという大変な作業でした。そのような作業を１日中続けるには、かなりの集中力が必要だと感じました。この集中力は、実は弓道でも同じです。矢を４本射終えるまでずっと集中するのはかなり大変です。まして大会となると緊張感との戦いに勝ちながらの集中です。弓道で身に付けた「集中力」が職場で生かせることに気づいた私は、更に部活動に力を入れるようになりました。

また、集中力とともに薬剤師に必要なのが「責任感」です。やるべきことをどんなつらいことがあっても最後までやり遂げる力が必要です。しかし今の私は「好きなこと」「楽なこと」に流れてしまいます。勉強というやる気にならないことは適当に終わらせています。このままでは薬剤師になることはできません。中学生の私でもできることから少しずつやっていこうと思います。

中学校生活は残り１年。半年後の３年生の夏には部活動を引退します。引退した後、また矢板中学校を卒業した後、一体私には何が身についているのでしょうか。私は「集中力」「コミュニケーション能力」「思いやりの心」と言えます。みなさんはどうですか？この矢板中学校での生活から、大きく成長する自分をイメージしてください。そのためにも、今自分と関わっている家族やクラスメイト、先輩、先生方、周りの人との関係を大切にしてさらに自分を磨いていこうと思います。そして、人のためになることをたくさんして、薬剤師になるという夢を実現させたいと思います。